

西田哲学館ニュース

創刊号 (2004/9/9)



西田幾多郎博士を偲ぶ「第六十回寸心忌」

西田博士の命日の前後に故郷でとり行われていた「寸心忌」が、今年で第60回忌を迎えました。今年は6/4には小学生による話し方大会、命日6/7にはお墓参り・碑前法要、6/8には藤田正勝氏(京都大学教授)による記念講演会が開催されました。

第51回 県学童話し方大会

石川県内の小学生が各々5分以内で自由なテーマで自分の思いを主張する話し方大会です。今年は、13名の小学生が発表しました。

この大会は、西田幾多郎の母校であり、父・西田得登が設立した宇ノ気小学校と、西田幾多郎博士頌徳会によって、昭和29年に開始されました。毎年、主催校・宇ノ気小学校の生徒による発表は、伝記『寸心読本 西田幾多郎先生』を読んで、小学生の視点からテーマを選んで発表しています。今年は、近藤夏美さん(6年生)が「大切にしたいこと」という題で発表しました。



墓参・碑前法要



西田幾多郎の墓は、全国に三つありますが、故郷のお墓でも、命日には西田家ゆかりの長楽寺住職がお経をあげ、多くの人が墓参に訪れます。今年は、合併後の新市長らも参加しました。

また、宇ノ気小学校前庭にある「無」字の頌徳記念碑の前では、西田家親族・かほく市長以下管理職をはじめ、多くの市民が参加し、法要後には宇ノ気小学校6年生による「西田幾多郎先生を讃える歌」が合唱されました。



寸心忌記念講演会 講師:藤田正勝氏(京大)

寸心忌記念講演会は、西田幾多郎の没後3年目、昭和22年に開始された伝統ある講演会です。最初期は、久松真一・西谷啓治・高坂正顯・天野貞祐・高山岩男・務台理作・山内得立・植田寿蔵など直弟子の方達や、その他にも暁烏敏らを講師に迎えていました。



記念講演会としては58回目を迎える今年は、京都大学大学院教授の藤田正勝先生に『哲学と詩歌をつなぐもの 西田幾多郎の悲哀を巡って』と題して講演をしていただきました。

その中ではマックス・シェラーの「悲劇的悲哀」と西田の「悲哀」とが比べられ、その詩歌とのつながりが説かれました。聴講者は約120名でした。

講演内容は、今年度中に発行される『点から線へ』(vol.46)に掲載を予定しています。

目次			
第60回寸心忌	1	パース・コンサート/インターナショナルアカスティックギターライブ	5
メスキルヒ市長来館/ハイデッガー展示ケース設置	2	映画上映会「ソフィーの世界」	5
第2回 西田哲学会 年次大会 参加報告	3	第3回 哲学の杜こども写生大会	6
第2回 西田博士作品を吟ずる 全国吟詠大会	3	第24回 夏期哲学講座	6
県民大学校「西田幾多郎哲学講座」/寸心読書会	4	新しいミュージアムグッズ紹介	8
市民講座「はじめての西田幾多郎」	4	編集後記/アクセス	8



独メスキルヒのツヴィック市長 来館

7月6日(火)、7日(水)

哲学を機縁にした姉妹都市提携、新たな時代へ

今年3月の市町村合併により、哲学館を管理・運営していた「宇ノ気町」が「かほく市」となりました。それに伴って、哲学者M.ハイデッガーの故郷である独メスキルヒ市との姉妹友好都市提携も引き継がれることとなり、あらためて市同士の調印式がかほく市にて7月6日に行われました。この「哲学」による国際交流も、来年で20周年となり、両市における西田哲学館とハイデッガー博物館の誕生や新市長の就任などによって新しい時代を迎えようとしています。



記念植樹をするメスキルヒ市長とかほく市長

姉妹都市交流のきっかけ

独メスキルヒ市とかほく市(旧・宇ノ気町)との関係は19年前までさかのぼります。夏期哲学講座の講師をお願いしていた大橋良介先生(現在大阪大学教授、哲学館名誉館長)が、「両市の景色が良く似ている」と新聞に掲載したのを見て、旧宇ノ気町は先生に仲介を依頼しました。ドイツ留学中からメスキルヒ市のラウザー前市長と交流のあった大橋先生は、両市の橋渡しをして下さり、その後1985年に姉妹都市提携が結ばれました。まさに哲学が縁となり姉妹都市交流がはじまったのです。その後かほく市ではドイツ人の国際交流員が中心となり、毎年訪問団が行き来したり、学校給食にドイツ料理が出るなど、市民にとって国際交流が身近になっていきました。



館内を見学するメスキルヒ市長一行

メスキルヒ市のアーネ・ツヴィック市長(32歳)らは、哲学館内を見学し世界的建築家の設計した思索の空間を楽しみました。その後、かほく市長と共に「哲学の杜」の中で大島桜を記念植樹しました。また、かほく市内にある西田幾多郎の墓地にて墓参をしました。



墓参をするメスキルヒ市長と哲学館長

これからの交流

調印式では、今後の交流方針が示されました。その中の博物館交流として、西田幾多郎とハイデッガーに関する資料の交換を行い、それぞれ展示コーナーを設けることや相互のホームページのリンク、哲学国際シンポジウムの開催計画が挙げられました。来年は姉妹都市提携20周年を記念し、メスキルヒ市にて記念事業が行なわれる予定です。



調印後、握手をする両市長



ハイデッガーの常設展示を設置

新たな姉妹都市提携を前に、西田幾多郎とM.ハイデッガーの著作を左右に展示したコーナーを哲学館内に常設しました。メスキルヒ市のハイデッガー博物館にも、西田幾多郎全集が展示されています。西田幾多郎とハイデッガーは直接面識がありませんでしたが、西田の弟子や友人たちはハイデッガーと親交を深めました。西田幾多郎の姪である高橋ふみ(かほく市木津出身)は、ドイツ留学中にハイデッガーから直接教わったこともあります。





西田哲学会 第二回年次大会に参加

8月24日(土)、25日(日)

昨年設立された「西田哲学会」の第二回年次大会が、東京都千代田区の上智大学(四谷キャンパス)において7/24、25と二日にわたって開催されました。西田哲学会の事務局である哲学館も、その開催には協力をしました。そして来年度の開催地には西田哲学館が選ばれました。

初日の24日(土)午前中には、一般会員や初心者向けの「プレカンファレンス」が行われました。

プレカンファレンスは、『善の研究』を勉強する講読部門(担当者:岡田勝明、水野友晴)と、何でも哲学に関して対話する自由茶話会部門「哲学サロン」(担当者:米山優、秋富克哉)の2つに分かれて行われました。



「哲学サロン」

大会プログラムには掲載されていませんでしたが、昼休みには、理事会が開催されました。哲学館に関係する事柄としては、

西田哲学会が事務の一部を委託している「日本学会事務センター」の経営不振によって今後の契約継続の妥当性が検討され、可能であればその事務を

西田哲学館に全て委託できないか討議されました。

第3回(H17年度)の年次大会開催地の第一候補として西田哲学館が選出されました。これは、西田哲学会と哲学館(かほく市)で協議され後日確定されます。

初日の午後には、以下の三つの講演会が行われました。

松丸壽雄(独協大教授)

「西田哲学と科学 純粹経験を視野に入れながら」

八木誠一(桐蔭横浜大客員教授)

「言語・自我・直接経験」

講演会の後には、会員同士の懇親会が行われました。



講演会風景

二日目の25日(日)午前には、以下の三つの研究発表がなされました。

杉本耕一氏「西田哲学における歴史と歴史を越えるもの 『絶対矛盾的自己同一』概念の分析を手掛りとして」

村田康常氏「実在と論理 西田とホワイトヘッド」

ゲレオン・コプフ氏「平常心と平常底とのあいだ 西田哲学における仏教解釈」



午後の総会では、会計報告や次回の年次大会の開催地予定地(西田哲学館)の報告、HP紹介がされました。

(www.nishida-philosophy.org)

その後、海外在住理事であるロルフ・エルバーフェルト氏より、ドイツ現代音楽と西田哲学の結びつきについて報告されました。

そして最後に「純粹経験」と題したシンポジウムが行われました。発表は、井上克人氏が哲学の立場から、クラウス・リーゼンフーバー氏が宗教学の立場から、小林信之氏が美学・芸術学の立場から「純粹経験」に関連して発表が行われ、その各々に対して代表質問がなされました。



シンポジウム

近日開催 西田幾多郎博士作品を吟ずる 第2回全国吟詠大会 入場無料

— 詠(うた)で聴く西多の世界



昨年開催された第一回全国吟詠大会は、全国から約200名の参加者が集い、盛大に開催されました。その好評を得て、今年も第2回大会が開催されます。今年も多くの参加者が、西田幾多郎の心打つ数々の吟題を朗々と詠いあげてくれます。ぜひ来場して西田の詩歌の世界に浸ってみませんか。

(日程)10月3日(日) 午前9:30開演



各種講座

県民大学校「西田幾多郎哲学講座」 *開催中*

西田幾多郎の人物・その哲学を中心にしながらも、そののみにとらわれることなく、様々な角度から宗教・芸術・倫理などについて学ぶ「哲学講座」。県内外の大学教授・名誉教授らを8人の講師を招いて、全12回の一般人対象の哲学入門講座として、人間とは何か、生きるとは何かを学びます。

〔日程〕 (以下の日程のうち青色は既に終了しました。)

- 5月22日(土) 浅見 洋「西田幾多郎と芸術」
- 6月 6日(土) 藤田正勝「哲学と詩歌をつなぐもの」(寸心忌)
- 7月 3日(土) 橋本隼男「宿業と救済 観無量寿經に学ぶ」
- 8月 7日(土) 鈴木康文「身体について考える 西田と現象学運動」
- 9月 4日(土) 島 岩 「仏教的ターミナルケアとビハーラ運動」
- 9月18日(土) 秋富克哉「民芸の思想 西田、鈴木と柳宗悦」
- 9月19日(日) 秋富克哉「創造する自己 西田哲学に即して」
- 9月25日(土) 杉本卓洲「仏塔の世界(1)」
- 10月 2日(土) 杉本卓洲「仏塔の世界(2)」
- 10月16日(土) 岡崎文明「ギリシャ哲学と禅の哲学(1)」
- 10月23日(土) 岡崎文明「ギリシャ哲学と禅の哲学(2)」
- 10月30日(土) 浅見 洋「西田幾多郎の生涯(9) 山口時代」



野外学習(長野方面)

毎年、県民大学校の受講生を対象として、西田幾多郎ゆかりの地を一泊二日で巡る野外学習が行われています。今年、長野を中心に、松本・小布施などを貸切バスで旅します。

〔平成16年度の日程〕
11月13日(土)～14日(日)

寸心読書会 *開催中*

1949(昭和24)年に始められた、一般人を対象とした西田幾多郎に関する本を読む読書会です。

今年5月から、田邊正彰先生(金沢学院大助教授)を講師に招いて、月1回のペースで、丁寧な解説

付きで読み進んでいます。現在のテキストは、『西田幾多郎随筆集』(上田閑照編)です。

日時は、原則的に第2土曜の午後2時からですが、変更の可能性がありますので、参加希望の方は事前にお問い合わせください。



『西田幾多郎随筆集』

市民講座「はじめての西田幾多郎」 5月16日(日)～8月8日(日)全5回 *終了*



展示室ボランティアの人達との会話から生まれた、「哲学」について全く触れないと宣言して始めた西田幾多郎の人となりに触れるた

めの入門講座です。

哲学は難しくても、市民として郷里の偉人に対する素朴な疑問、「西田幾多郎ってどんな人?」「有名なのは知っているけど、何をしたらかわからない!」という声にお答えするための講座です。

西田博士のことも哲学のことも全く知らない人が、わかりやすく学ぶことができ、講座終了後には、少し「知ったかぶり」ができるようになることを目的として合計で5回開講しました。講師は、奥野良雄館長と

大熊玄専門員がつとめ、テキストには哲学館の図録『西田幾多郎の世界』を用いて、西田博士の生立ち、人柄、短歌、書について、楽しく分かりやすく親しむことができました。



『西田幾多郎の世界』



コンサート・各種イベント

かほく市バースデーコンサート 3月31日(水)

3月のかほく市誕生を記念して、「弦楽四重奏で春を感じる」をテーマにしたコンサートが館内のホワイエや哲学ホールで開かれました。演奏者は、オーケストラ・アンサンブル金沢のバイオリン奏者・坂本久仁雄さん、ヴォーン・ヒューズさ

ん、ピオラ奏者の石黒靖典さん、チェロ奏者の大澤明さんの四人。クラシックからポップス、童謡まで多彩な12曲を披露し、最後には皆でハッピーバースデーも歌いました。



ホール



ホワイエ

インターナショナル アコースティックギターライブ 5月15日(土)

世界各地で活躍するギタリスト・中川イサトさんが各国のプレイヤーと行なう日本ツアーが開かれました。

昨年初めて行われたこのライブは、中川さん自身がホールを非常に気に入り、今年も哲学館が全国七会場の一つに選ばれ、昨年に

続き二回目の開催となりました。

中川さんの他、ベルギーのギタリスト・ジャック・ストツェムさんとハーモニカ奏者のチリ・クロンメンさんが加わり、「浜辺の歌」「ガンド」等の演奏を聴かせてくれました。



映画上映会「ソフィーの世界」 5月23日(日)

映画『ソフィーの世界』は、ノルウェーの元高校教師ヨースタイン・ゴルデルが書いた世界的ベストセラー小説が映画化されたものです。ゴルデルは、11年間の教師生活の経験を生かして児童・青少年向けの作品を数多く発表していますが、特に1991年に書かれたこ

の『ソフィーの世界』は、世界中で記録的なロングセラー小説となり、1994年のドイツ青少年文学賞、最優秀作品賞・作家賞・出版社賞を受賞しています。日本では1995年に翻訳され、日本にも哲学ブームを巻き起こしました。

原作はかなり厚い本なので、映

画化のために冗漫になるような部分は大幅にカットされ、映画特有の演出がされていますが、それでも本質的な部分は損なわないように丁寧に映画化されています。ゴルデルの著作には賛否両論ありますが、「哲学的な」映画として十分に楽しめるものとなっています。

第3回 哲学の杜 こども写生大会 7月10日(土)～8月11日(水)

哲学館を中心とした「哲学の杜」や、西田幾多郎のゆかりの地を描く「哲学の杜 こども写生大会」を行ないました。館内には、哲学館ならではの現代美術のような空間があちこちにあり、館外の杜にはたくさんの草花が咲き、多くの小鳥たちがさえずっています。

県内各地から、約60名の参加がありました。子供達は、その館内外を歩き回り、自分がこれと決めた場所に座り込んで、真剣に絵を描いていました。下の6枚は、左から1年生～6年生までの各々の優秀賞をとった作品です。





第24回夏期哲学講座が開催されました

7月21日(土)～24日(火)

1981年から続く「夏期哲学講座」も、今年で24年目をむかえました。この3泊4日の集中講座に、今年も各地から7人の教授陣を講師に迎えて、西田哲学を中心に哲学・宗教・倫理を学びました。受講者は、北海道から九州まで全国から哲学館に集いました。今年は哲学館内「ホワイエ」で行った「初めての坐禅会」も大変好評で、地元メディアでも注目を集めました。

夏期哲学講座は、石川県西田幾多郎記念哲学館の前身である「西田記念館」の時から24年間続いている歴史ある講座で、館としては、講師・受講者ともに全国から多くの方達に集まっていただく夏のメインイベントです。

今年の**受講者**は、北は北海道から南は熊本県まで、年齢は18歳～83歳、職業は学生・庭師・主婦・記者・公務員・高校教師・会社員・税理士・医者・大学教授など多彩な顔ぶれで、哲学に関しても初心者からセミプロまで合計61人が哲学館に集いました。

講師には合計7人の先生方に来ていただきました。昨年に引き続き、森哲郎先生(京都産業大学)を主任講師にむかえ、当館主催の講座では既におなじみの岡田勝明先生(姫路獨協大学)、橋本隼男先生(金沢工業大学名誉教授)に加え、新たに平田俊博先生(山形大学)と岩本明美先生(関西大学)のお二人の講師に来ていただきました。



平田俊博先生



岩本明美先生

講演会は、3回行われました。初日の開講講演会は浅見洋先生(石川県立看護大学)に、三日目の講演会は森先生に、最終日講演会は、大橋良介先生(大阪大学大学院教授・西田哲学館名誉館長)に講演していただきました。



大橋先生講演会

グループ別研究会は、講義型の1時間半の研究会です。先生による講義が主となって、それに受講者による質疑が加わります。A・B2つに分かれて、それぞれ岡田先生・岩本先生に担当していただきました。

コース・テーマ別研究会は、受講者が希望の分科会を選んで分かれる少人数の対話型の研究会です。同時に5つの場所で並行しておこなわれます。参加者は、参加動機などを含めて自己紹介し、その後、各々のコーステーマの目的に沿って、テキストを読んだり、講師による説明を聞いたり、質問・討論が交わされます。二日で合わせて8時間の研究会となります。

その他 合宿所では毎晩のように自主的に自由討論会が開かれました。また、三日目には岩政伸治さんによる個人研究発表も行われ

れました。また、講義だけでなく初日には西田博士の漢詩や短歌を吟ずる吟詠コンサートが行われました。

さらに今回は、国の登録有形文化財として市内に保存されている西田博士の書齋「骨清窟」の見学とお墓参り、海辺の「海と渚の博物館」の見学、海に沈む夕日を眺めながら食事をする落日拝などが催されました。



書齋「骨清窟」内部

この講座の受講者の多くは、何回も参加している「リピーター」が多いのですが(5～9回参加が12人、10～19回が6人、20回以上が5人います)、今回は初参加も15人いました(うち10人が学生です)。

中には「今回20年ぶりに参加し、この講座が続いている事を本当にありがたく思いました。いつまでも続いてほしい...」など、終了後に集めたアンケートに、多くの感謝の言葉をいただきました。



コース別・テーマ別研究会の様子(研修室・ホールステージ上・展望ラウンジ・隣接施設の和室にて二日にわたって行われました)



第24回夏期哲学講座 スケジュール概要

2004年8月21日(土)～24日(火)

21日(土)	13:30- 開講式 オリエンテーション 吟詠コンサート	15:00- (講演会) 西田幾多郎と キリスト教の対話 (浅見洋)	17:00- 墓参 書斎「骨清窟」 見学 落日拝
--------	---------------------------------------	--	--------------------------------------

22日(日)	8:00- 初めての 坐禅会 (森哲郎)	10:30-12:00 (グループ別研究会) A 西田哲学と生命論 (岡田勝明) B アメリカ仏教 新しい仏教の創造 (岩本明美)	13:30-(4h) (コース別研究会) 「場所」を読む(2) (森哲郎) 「生命」(哲学論文集第七)を読む(岡田勝明) 「唯識三十頌」を読む(岩本明美) 『善の研究』第四編「宗教的要求と宗教の本質」(橋本隼男) 人格思想の誕生 カントから西田へ (平田俊博)	20:00- 討論会 自由参加
--------	-------------------------------	---	--	-----------------------

23日(月)	8:30- (講演会) 脱自と表現 (2) (森哲郎)	10:30-(4h) (テーマ別研究会) 自由と自然 鈴木大拙に学ぶ (森哲郎) 夏目漱石「硝子戸の中」を中心にして (岡田勝明) 仏教心理学・唯識思想入門 (岩本明美) 浄土とは何か 維摩詰所説経に学ぶ (橋本隼男) 日本哲学の可能性 日本語の現象学的優位性 (平田俊博)	16:30- (研究発表)	20:00- 討論会 自由参加
--------	---	---	------------------	-----------------------

24日(火)	8:30- (講演会) 哲学と建築(3) (大橋良介)	11:00- 閉講式
--------	--------------------------------------	---------------



記念写真

初めての坐禅会

二日目朝に、哲学館の地下中央にある瞑想空間「ホワイエ」で「初めての坐禅会」を行いました。

昨年の講座で、森先生が数人に坐禅について和室で説明し、実際に少し坐ってみたところ、アンケートで非常に好評でした。そこで、今年は最初から講座参加者に希望者を募ったところ、予想以上に41名もの参加を得ました。



コンクリート打ち放しで上には大きな窓を持つこの「ホワイエ」(仏語で「ロビー」の意)を円形の和室に車座に坐る「坐禅場」は、アンケートでも「ロケーションがとても良かった」「坐禅のイメージが変わった」等と楽しんでもらえたようです。

全体で1時間の短い時間でしたが、最初に森先生から説明があり、その後皆で約30分坐りました。皆さんの感想は「すごい気持ちよかった」「講座とは別の意味で勉強になった」「手から汗が出て早く終わらないかと思ったが、良い体験でした」「参加してよかった」「また実施してください」等と大好評で、地元新聞にも大きく取り上げられました。



坐り方を説明する森先生

2005(H17)年 第25回 夏期哲学講座

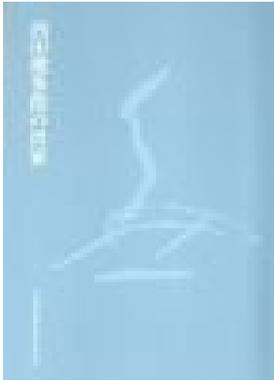
今年の講座が終わったばかりで、詳細は未定ですが、日程だけは決まっています。来年8月第3土曜日の昼からの開催です。ぜひご参加ください。詳細は、来年の6月下旬にお知らせします。

〔平成17年の開催予定日〕
8月20日(土)～23日(日)
お待ちしております！



新しいミュージアムグッズを紹介します

図録



待望の哲学館の図録が完成しました。館内の展示に沿った内容で、時代別・テーマ別に西田幾多郎の生涯が分かりやすく解説されています。

少年・学生・四高教授であった「宇ノ気・金沢時代」から始まり、京大教授であった「京都時代」、退官後亡くなるまでの「鎌倉時代」まで、多くの写真・資料を加えて西田幾多郎の生涯をまとめました。

思索者としての顔、そしてそこから生まれた詩や書も多く掲載されており、人間・西田幾多郎を知るための入門書となっています。

最後には哲学館を設計した安藤忠雄さんの思いが綴られています。 販売価格：1,500円

ポストカード

要望の多かったミュージアムグッズです。西田幾多郎セットAと安藤建築セットB、それぞれ6枚入り。お土産にもちょうど良い一品です。

Aセット（西田幾多郎）

Bセット（安藤建築）

販売価格：各 500円



一筆書



西田幾多郎が使用していた指定原稿用紙「西田用紙」を切り取ったデザインの一筆箋です。

1冊に3色の用紙が入っているので、用途によって違う色を使うことができます。

販売価格：350円

寸心読本（改訂版）

西田幾多郎の生涯を小学生にもわかるようにと、やさしく編纂された伝記『寸心読本 西田幾多郎先生』（初版1977年発行）の改訂版ができました。

内容は物語になっており、読みやすく、かほく市内の小学4年生に配付されて総合学習などの副読本としても利用されています。 販売価格：800円



編集後記：

開館して2年間、皆様にお伝えしたいことがたくさんありながらも、機関紙を作ることが出来ず、申し訳ありませんでした。実は幾度も作成を手がけ、様々な事情で挫折していましたが、やっと皆様のお手許に届けることができました。

今回の創刊号は、この半年間ほどの出来事を記載しました。未記載のことも時間をさかのぼりながら、今後、少しずつ掲載していければと思っております。紆余曲折を経て、結局は構成・文章・デザイン・印刷の全てを哲学館内で行なう自家製「便り」となりましたが、今後ともご愛読いただければ幸いです。（大熊）

発行・印刷：



西田幾多郎記念哲学館
NISHIDA MUSEUM OF CITY OF KAHOKU, ISHIKAWA

〒929-1126 石川県かほく市内日角井1

TEL (076)283-6600 FAX (076)283-6320

E-mail: nishida-museum@city.kahoku.ishikawa.jp



発行年月日：2004年9月9日